

1. 日 時 平成28年8月2日(火) 17:00~18:30

2. 開催場所 市役所本庁舎2階 第3委員会室

3. 出席委員名(敬称略)

役職	氏名	出欠
会 長 (宮城学院女子大学名誉教授)	白木 悦子	○
副会長 (東北大学教授)	永富 良一	○
委 員 (仙台市中学校体育連盟顧問)	朝間 康子	○
委 員 (仙台市スポーツ推進委員協議会理事長)	大林 一信	○
委 員 (ベガルタボランティアクラブ事務局)	加藤 茂子	○
委 員 (宮城教育大学教授)	木下 英俊	○
委 員 (仙台市レクリエーション協会事務局長)	黒田スミ子	○
委 員 (東北電力株式会社広報・地域交流部副部長)	佐藤 信康	○
委 員 (仙台市体育協会理事長)	渋谷 光保	○
委 員 (仙台市議会議員)	鈴木 勇治	○
委 員 (東北福祉大学特任准教授)	鈴木 玲子	○
委 員 (仙台市障害者スポーツ協会専務理事)	中嶋嘉津子	×
委 員 (仙台大学副学長)	仲野 隆士	○
委 員 (仙台市学区民体育振興会連合会副会長)	堀江新一郎	○
委 員 (仙台市小学校教育研究会体育研究部会常任委員)	前川 昭子	×
委 員 (東北学院大学教授)	松原 悟	○
委 員 (NPO 法人キューオーエル理事長)	横山 英子	×
委 員 (仙台市スポーツ少年団本部長)	吉田 尚	○

4. 説明に出席した者の職・氏名

スポーツ振興課長	文屋 健
スポーツ振興課企画係長	高橋昭太郎
スポーツ振興課主任	早坂 正宏
スポーツ振興課主事	星野 真弓

5. 会議の経過

(1) 開 会

(2) 会長挨拶

(3) 報告事項の内容

進行役：白木会長

会議録署名委員の指名：佐藤委員

白木会長 報告事項について、事務局よりご説明をお願いします。

事務局 それでは、ご報告させていただきます。

[事務局報告] . . . 報告資料 1～2

資料 1：「平成 28 年度仙台市スポーツに関する意識調査」報告書

資料 2：「仙台市スポーツに関する意識調査」の結果について

白木会長 ただいまの報告について、ご意見、ご質問等がありますでしょうか。

鈴木委員 今回、多くの項目で数値が低下しているように見受けられるが、事務局でどこに重点を置いて分析するのか何かお考えはありますか。

事務局 主原因はどこにあるのか分析しきれていない状況ですが、東日本大震災の影響等も交えて分析したいと考えています。近年の市民の動向を見るとスポーツに関心を持つ人は増加傾向であると思っておりましたが、今回の調査結果は、その予測に反するものでした。また、調査の中でも「スポーツを身近に感じられる環境の整備」が多く求められたことを踏まえると、市の取り組みに関しても反省すべき点はあると考えます。

鈴木委員 アンケートの取り方自体に問題はなかったのでしょうか。

事務局 前回の調査と同様、対象者の居住区、年齢、性別は平等に抽出していますし、調査人数についても本市の人口から見たサンプル数としては妥当であると考えています。ただし、回答率からみると若干高齢の方の方が高い傾向にあるため、そのあたりは配慮して結果を分析する必要があると思います。

朝間委員 女性の回答率が高かったようですが、前回はどうだったのでしょうか。

事務局 前回も男性 45.0%に対し、女性が 50.4%（無回答 4.6%）と女性の方が高い傾向にあります。

黒田委員　今回は各区同じ割合で対象者を抽出していますが、実際の人口は区によってばらつきがあります。このことは結果に影響しないのでしょうか。

事務局　各区 600 人ずつ抽出しましたが、どの区の人口からみても必要サンプル数は満たしていると捉えており、結果に大きな影響はないと考えています。

黒田委員　各区の施設の設置数は同じくらいなのでしょうか。

事務局　拠点となる体育館は各区に設置されています。その他サッカー場やグラウンドといった施設は多少各区でばらつきはありますが、これまでの施設整備計画上の必要数は満たしていると認識しています。

(4) 議事の内容

白木会長　続いて、議事に入らせていただきます。

「仙台市スポーツ推進計画」における今後の取り組みについて、事務局より説明をお願いいたします。

事務局　続いて、「仙台市スポーツ推進計画」における今後の取り組みについて説明させていただきます。

〔事務局報告〕　・・・報告資料 3

資料 3：「仙台市スポーツ推進計画」における今後の取り組みについて

白木会長　ただいまの報告について、ご意見、ご質問等がありますでしょうか。

吉田委員　施設整備のあり方について、平成 22 年までは施設の整備計画があったようですが、今後もそういった計画をしっかりと立てていかないといけないと思います。計画の策定を含め、今後の取り組みについてはどのようにお考えでしょうか。

事務局　施設の延命化を図るためにも、大規模施設を主とした修繕計画を今年度内に策定したいと考えています。

仲野委員　まず、今回の結果についてですが、仙台市だけに言えることではなく、国などが行う調査でも、全国的に 2013 年以降スポーツ活動が低下傾向であることという結果も出ています。あまり、今回の「低下」に関してだけに捉われなくてもよいと考えます。

次に、「オリンピック」を契機とした取り組みについてですが、ロンドンオリンピックを例に挙げると、オリンピックの前後でスポーツの実施率が大きく変わることはありませんでした。

スポーツ実施率を上げるためには、オリンピックに頼るだけでなく、新たな取り組みを検討する必要があると思います。

白木会長

トップアスリートに対する支援は日本でも整いつつありますが、一般の人もスポーツを楽しめるような環境の整備が必要と感じます。

永富副会長

情報源として、意外にインターネットの利用が低かったです。

スポーツは、飽きずに長く楽しめる一方で、始めるには少しハードルが高いようです。スポーツを始めるきっかけを与えることが必要であり、それには情報発信が大きなカギとなります。メディアの活用も含め、情報発信を工夫する必要があると思います。

また、親子向けの取り組みも有効と考えます。「子育て世代」のスポーツ実施率の低下ということも結果で見られますので、そこにターゲットを絞って取り組むのもいいかと思います。

いずれ、重点項目を決めて情報発信をしていくことが有効だと思います。

仲野委員

施策を進める上でターゲットを絞った取り組みが必要と感じます。

実施率を上げるには、「スポーツをしていない人」に焦点を置き、初心者でも気軽に始められる、ハードルの低い取り組みを進めることなどが有効だと思います。

黒田委員

「レクリエーションまつり」を例に挙げても、参加者から「もっと早くこのイベントの存在を知りたかった」、「もっと広報した方がいい」という声もあり、参加者の満足度が高い割に、参加者数が伸び悩んでいるのが現状です。各団体でも資金が限られており、なかなか思ったようにイベントを周知できないことが課題であるため、行政から情報発信の面でもサポートがあるといいと思います。

加藤委員

これまでの刊行物を中心とした広報に加え、駅での掲示などもう少しインパクトのある方法も求められているのだと感じました。

永富副会長

情報発信の手段としては、他の例を参考に、また国の補助金制度もうまく活用しながら最新の技術を使ったサービスを試験的に行ってみるのも、一つあると思います。

事務局

もっと、多くの情報を集約し、なお分かりやすい情報発信のあり方についても検討していきたいと思います。

松原委員

現在の課題を4つ挙げたいと思います。

まず1つ目は、部活動の指導者が不足しているということです。プロスポーツを3つも抱えているという利点を生かし、プロスポーツ球団から指導者を派遣してもらうなど、もっと地元のトップアスリートを活用するとういと思います。

2つ目は、施設の開館時間についてです。平日の日中に利用できる人は限られているのだから、施設を有効に活用し、また30代、40代といった「働く世代」の忙しくてスポーツに親しむ時間のない人たちに活動場所を提供するためにも、早朝時間をはじめとした利用時間の拡大について検討することも必要かと思います。

3つ目は、スポーツ機器の活用についてです。近年はスポーツに関してデータ分析できる機器が出てきています。自らの成果をデータ化し、数値で見られることは運動を継続する原動力にもなることから、そういった機器の貸し出しなど、特に高齢者向けにサポートすることが有効と考えます。

4つ目は、スポーツボランティアの減少についてです。もっとボランティア人口を増やし、イベントを盛り上げていく必要があると感じます。

吉田委員

これまで、スポーツを実施しない人への支援策について各委員からご意見をいただいておりますが、スポーツをしている人が継続したくなるような支援も大切だと思います。ハーフマラソンといった地元のスポーツイベントにも、もう少し市民が多く参加できるよう配慮してもらえるといいと思います。

朝間委員

アンケートの結果からも、様々な問題が絡み合っていて、スポーツの分野だけで解決できるものでないと感じます。今後の取り組みにおいては、もっと市の関係部局の連携を強めてほしいと思います。

事務局

他の関連計画とも密に連携をとりながら進めていきたいと思っています。

仲野委員

実施率の低下という今回の結果にあまり固執しなくてもいいかもしれません。例えば国での「健康日本21」に示される目標歩数といったものを参考に、市民の目標を客観的な指針として数値化して示すと分かりやすいと思います。

永富副会長

今回の結果の要因分析を進めていくにあたっては、様々な角度から仮説を立てながら、分析していくことが重要なプロセスであり、関連する方々からの幅広く意見を聴収する場が必要だと思います。

佐藤委員

全国の数値と比較して、市民に示すのも有効な手段だと思ひます。
本市の強みや弱みも見えてきますし、他市町村と比較することで危機感を持つ動機づけにもなり、スポーツの実施率の低下に対する問題意識も持ってもらえると思ひます。

事務局

本日いただいた意見を集約し、計画における今後の取り組みに反映してまいりたいと思ひます。

白木会長

その他、特になければ、本日の審議を終了とします。

(5) 閉会